

平成24年度 第4回 四国地方整備局事業評価監視委員会 議事録

1. 日時：平成24年12月17日（月） 13：30～16：16
2. 会場：高松サンポート合同庁舎 13階会議室
3. 出席者
委員：矢田部委員長、岡部委員、高塚委員、中野委員、三木委員、渡邊委員
四国地整：局長、次長、次長兼総務部長、企画部長、建政部長、河川部長、道路部長、
営繕部長、用地部長、他
4. 議事内容
 - ・再評価審議
 - 1) 山鳥坂ダム建設事業
 - 2) 中筋川総合開発事業（横瀬川ダム）
5. 審議結果
 - ・再評価対象事業について審議した結果、以下の結論を得た。
 - 1) 山鳥坂ダム建設事業
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
 - 2) 中筋川総合開発事業（横瀬川ダム）
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
6. 委員からの意見・質問、それらに対する回答等（意見・質問：ゴシック、回答等：明朝）
 - ・再評価対象事業
 - 1) 山鳥坂ダム建設事業
 - 資料3の5-1頁からの「費用対効果の検討」については、B/Cの検討に限るのであれば、「費用便益分析の検討」とすべきではないか。
→ ご意見をふまえ、今後適切に修正する。
 - 「流水の正常な機能の維持」に関する身替わり法による評価について、山鳥坂は、洪水調節と正常流量の維持の2つの役割があり、規模の経済性が働くのではないかと考えている。正常流量の維持に特化した評価をすると、規模の経済性が働きにくくなり、身替わり建設費が高めに出ることに対する妥当性をどう担保されたのか。
→ ご意見をふまえ、今後、検討していきたい。
 - 河川整備計画の目標流量を実現するため色々な代替案を比較検討して、最も合理的な対策を選んでいるが、そうして選んだ最後に、費用便益分析を行う必要があるのか。
それが、B/Cでもし1を下回ったとしたら、やらないという決定になるのか。

→ ルール上、B/Cも検討することになっており、B/Cが1を割るとするのは、事業の見直し
が何らかの形で必要になる。

○ 代替法は1位と2位の比較なので、1を上回るのは分かっている。そういうものを含めてB/
Cを出すのがいいのか。目標を決めて、その中でベストな案を選んだのであれば、それで良いと
いう考え方も出来るのではないか。

→ ご意見をふまえ、今後、検討していきたい。

○ 正常な流量の確保あるいは自然な流れの回復は重要だということで、色々な調査をして定性的
には評価としてあげられている。こういうものを、最終的にはB/CのBの方に、何だかの形で
盛り込んでいく努力をしていただきたい。また、要検討という形でも、文章の中に記載すべき。
そうすれば、いずれそれがベネフィットとして評価できるようになる、そのための資料として、
活用される。

→ ご意見をふまえ、今後、検討していきたい。

○ 代替案で森林の保全があげられているが、山を整備することによりどれぐらい正常流量の機能
維持に効果が見込めそうなのか、そして国土交通省として、今後どういうふうはこの問題に取り
組まれていくのか。

→ 森林整備イコール湧水に効くという定見は、まだたっていない状況であり、我々も新たな知見
に取り組んでいきたい。

○ 資料4-102頁の治水対策費のコスト評価で、「完成までに要する費用」と「うち山鳥坂ダ
ムの効果量に相当する対策費用」の差が、全ての案で約700億円あるが、ダム以外の部分の工事
は共通ということか。

→ 基本的に、山鳥坂ダム以外の河川整備計画に載っている治水事業は全ての案が共通しているが、
それぞれの案に合わせて整備計画を見直した結果を反映している。

2) 中筋川総合開発事業（横瀬川ダム）

○ 学識経験を有する者からの意見について、どう考え、対策をされているのか。

- ・ アオコや鉄バクテリアの発生に注意して検討する必要がある。

→ 今は事前の水質をしっかりと調べている。指摘は、ダムが出来上がってから、水質が問題になる
ことが想定されるため、汚濁防止のため水質の悪化を防ぐようなフェンスを付けるのなら、つけ
ることを工事中から想定しておけば、容易に得られるのではないかという指摘と認識。

- ・ 水の流し方について工夫が必要。

→ 河川管理の中で、貯水池内に溜まる土砂の撤去方法とか、下流側の環境を考えたような運用に
ついて、引き続き検討していきたい。

- ・ ダムが完成しても冠水が発生する。生態系のことも考えて検討してほしい。

→ 冠水に関しては、ダムが効かないという趣旨ではなく、外水は防げても、内水被害が発生する
ので、それについても考えてほしいというご意見。これについては、県、市と連携し、対策を考

えていきたい。また、植物や動物など、どういうものが存在し影響を受けるのか、これまで調査を進めており、水没する所に対する配慮では、似たような環境への移植や、類似の環境が他にないか継続的に観測していく。

- このダムは上水にも使われると聞いており、水質保全には充分配慮していただきたい。
- 今回このような事業が進捗している段階で、詳細な検証から得られる教訓というものを得て、そして将来に活かしていくことが大事だと思っている。この分析結果から得られる教訓として、私としては、全体事業で見ると、他の代替案の方が費用便益分析の視点から見ると経済的に有利に見えるものがあるかもしれない。でも、そういう費用対効果分析、そのお金に必ずしも乗ってこないような効果のことまで含めて、本当に総合的にみると、この横瀬川ダムの建設事業というものが、やはり最善だったと、そういうような回答をいただきたいと願って質問しているわけです。それは、改善する点があるとしたら、「こういう点はやはり今後、具体的に改善していく必要がある」ということをおっしゃっていただく、国民の方に分かりやすくお伝えすることが、リスクコミュニケーションとか、あるいはパブリックリレーションズを、更に円滑にしていくために、必要なことではないかと感じている。
 - 国民に分かりやすく伝えることを工夫していきたい。
- 老朽化の進んだダムをどういう形で補修していくのか。今後 50 年間の補修費は、積み上げているが、そこから一気に大きな補修費が出たり、場合によってはダムの解体費が、新たに出てくることがあるが、そういうことも含めて、総合的に評価をしているのか。
 - B/Cのコストの計算の中でいうと、例えば、200年経ったら撤去するというような解体費は考慮されていない。ただ、機械、電気設備は、10年、15年使えば錆びてくるところもあるし、機械的にも総入れ替えが必要だという所もあり、どれくらいの電気とか機械関係のメンテナンスの費用がかかっているか、あるいは管理のために、どれくらいの人が必要かというところは、毎年必要な維持管理費として積み上げている。
- 各地で起こっている中長期的な影響というものが、どのようにして発生しているのか、そして、それを適切にどうやって、マネジメントできるのかと、そういうことも、これから是非、考慮して実施していただきたい。
- 説明があったように、洪水調節と流水の正常な機能の維持、目的が複数あって、それぞれで便益を出して比較しており、これは、特定多目的ダムの法律に基づいたアロケ率を使って、費用を分けている。これを最終的には事業の評価にも使ったらいいのではないかと。個別に目的ごとに、便益と費用で比較する形で出してもよいのではないかと。
 - ご意見をふまえ、今後、検討していきたい。